



おいしいおすしに舌鼓 秋田調理師会「大秋会」県南支部による料理慰問

10月2日、秋田調理師会「大秋会」県南支部（赤川忠勝支部長）の皆さんが後三年鴻声の里（樫尾正義施設長）を訪れ、利用者と施設職員に料理を振る舞いました。はじめに、利用者数名が手ほどきを受けながら握りずしづくりに挑戦し、その後はプロの料理人が腕を振るった握りずしや茶わん蒸しなどを全員で堪能しました。

毎年行われているこの活動は今年で19回目を迎えます。樫尾施設長が「握り立てのおすしを味わう機会が少ないので、利用者の皆さんも楽しみにしていました。おいしくいただきます」とお礼を述べると、赤川支部長は「この活動を続けて19年目になるが、だいぶ顔見知りが増えてきた。今日の料理を食べてパワーを蓄え、これからも健康で元気の毎日を送ってほしい」と話してくれました。

町の魅力を広く発信 美郷町観光レディ委嘱状交付式

10月9日、名水市場湧太郎で美郷町観光協会（戸澤正武会長）が主催する美郷町観光レディ委嘱状交付式が開催されました。

同協会では、町の観光資源や特産品などをアピールする人材として、コンテスト形式で「ミス清水」を委嘱してきましたが、今年からは未婚・既婚にこだわらず「町の魅力発信のために活動したい」という女性を選考し、「観光レディ」として委嘱することとしました。

初代美郷町観光レディに選ばれたのは、六郷小学校に勤務する江畑智左枝さん（中島・藤原）と、サテライト六郷に勤務する工藤舞さん（大仙市）の2名。戸澤会長から委嘱状が手渡されると、江畑さんは「美郷町の観光レディとして、町の魅力を笑顔でPRしたい」と意気込みを述べ、工藤さんは「職場で美郷町の人に接するにつれ、人がすてきな町だと思った。これから町の魅力を全国に発信したい」と抱負を語ってくれました。

観光レディの二人は今後、県内外のイベントに参加して町をPRしていくことになります。



■工藤舞さん



■江畑智左枝さん

多喜田千代野さん(埼玉県上尾市)が優勝 第23回民謡「長者の山」全国大会

10月12日と13日の両日、美郷町公民館で第23回民謡「長者の山」全国大会が行われました。今年は県内外から、一般の部に77名、熟年の部に68名、ジュニアの部に19名の合計164名が参加し、日ごろ鍛えた自慢ののどを披露しました。各部門の上位入賞者は次のとおりです。（敬称略）

【一般の部】

優勝 多喜田 千代野(埼玉県上尾市)
準優勝 浅野 晴香(秋田市)
第3位 浅野 沙樹(秋田市)

【熟年の部】

優勝 柏田 和江(岩手県矢巾町)
準優勝 斎藤 きょう子(秋田市)
第3位 福田 アヤ(八峰町)

【ジュニアの部】

最優秀賞 高橋 愛実香(男鹿市)
優秀賞 菅原 桃香(男鹿市)
優秀賞 澤木 美晴(男鹿市)



■一般の部優勝の
多喜田千代野さん

多彩な演目を満喫 美郷町芸術文化協会 芸能発表会

10月20日、美郷町公民館で、美郷町芸術文化協会（高橋進会長）の加盟団体による芸能発表会が開催されました。発表会には同協会に加盟している22団体が参加し、唄や踊り、コーラスや演奏などの日ごろの成果を発表しました。

会場を訪れた約450名の観衆は、ステージ上で繰り広げられる多彩な演目に拍手や手拍子で応えるなど、楽しいひとときを過ごしていました。





文化勲章受章者の高階秀爾さんが新たに就任 美郷大使就任式

9月28日、美郷大使就任式が名水市場湧太郎で開催され、美術評論家で文化勲章受章者の高階秀爾さんが新たに大使に就任しました。高階さんは国立西洋美術館館長などを歴任し、現在は東京大学文学部名誉教授や岡山県倉敷市の大原美術館館長を務めているほか、多数の著書が出版されるなど、美術研究、評論の第一人者として活躍されています。父親が日千畑町出身で、戦中は仙北地域で過ごしていたという縁もあり、このたび美郷大使に就任されることになりました。

就任式では町内団体関係者らが見守る中、松田町長から高階さんへ委嘱状が交付されました。高階さんは「伝統ある日本文化に興味を持つ外国の方も大勢いる。美郷大使として、日本の優れた文化を伝えていきたい」と熱意を込めました。

美郷大使には高階さんのほかに、元東京大学総長の佐々木毅さん、北都銀行取締役会長の町田睿さん、絵本作家の永田萌さんがすでに就任しており、観光や物産などの情報を広く発信するとともにまちづくりへのアドバイスなどのご協力をいただいています。



▲松田町長から委嘱状を受け取る高階秀爾さん(写真右)

安全へのアプローチ

美郷町長 松田知己

風



南分署に導入された高規格救急車の車内を見学する松田町長(写真左)

稲刈りも終わり、「やれやれ」と思っていたところに台風が来襲。美郷では被害なく過ぎ去ってくれましたが、伊豆大島の惨状には目を覆うばかりです。しかも、砂防施設の整備など想定される施設整備は済んでいないこと。改めて豊かな自然が隠れている危険な牙、実感するところです。

そして、美郷も豊かな自然が誇りのところ。先々月の本欄でも触れましたが、自然災害は決して他人事ではありません。美郷は山林を抱え、河川を抱え、そして活断層を抱えております。そのため、これまで安全安心に向けたいろいろな施策の展開や協定の締結など行ってきたところです。

町にとって一番の脅威はやはり地震です。以前本欄で紹介したとおり、東京大学の先生から見通す範囲で心配ない旨のお話を頂いておりますが、町では備えを重ねています。まずは民家の耐震補強。補助事業を継続中です。ご活用ください。そして避難所の耐震補強。今年、体育館の耐震工事を実施し、これでは大きな施設は完了です。現在は小さい施設や国が最近指針を出した吊り天井について調査中です。結果が出れば来年度から対応

応じます。

次に降雨です。河川水位を監視しながら、土砂災害に最大限の注意が必要です。町内に危険箇所があるからです。そのため11月上旬、対象世帯に説明会を開催し、住民と行政が危険回避の共通認識を持つこととしております。

そして情報伝達。まずは全町一斉に情報伝達する防災行政無線を整備しました。次に学校関係で安全安心メールシステムを整備しました。しかし防災行政無線は屋内でよく聞こえないご指摘もあり、今後、補完の意味も含めて屋内対策も検討していくつもりです。

このように施設整備は着実に推進していきます。しかし同時に大切なことはみなさんの「意識」です。緊急時の判断や対応は日頃の意識に左右されると思うからです。防災については「これでよし」ということはありません。安全へのアプローチとして、常に防災意識を持ち続けていきたいものです。